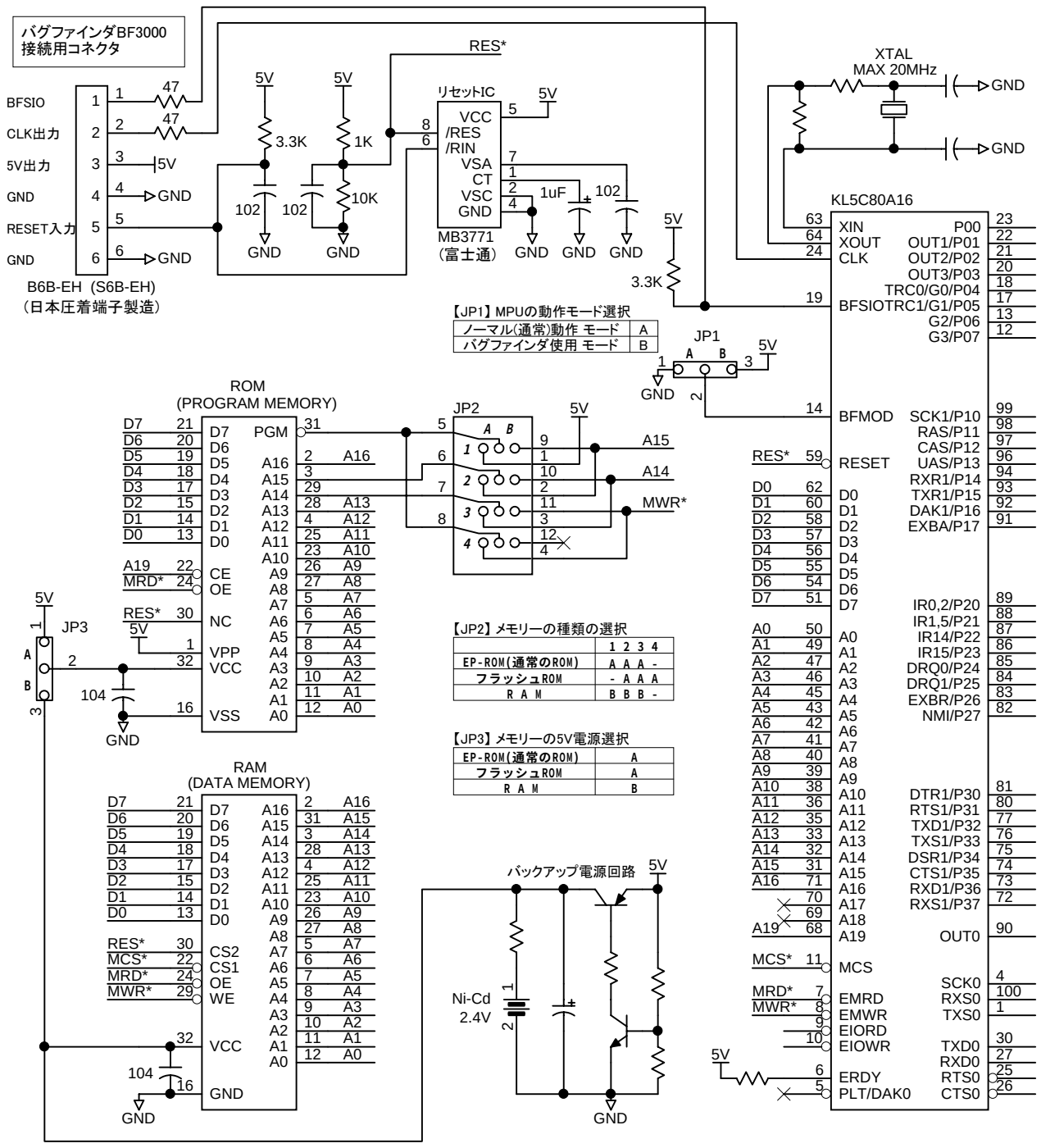

■ このサンプル回路ではプログラムメモリ(ROM)、データメモリ(RAM)共に128Kバイト(1M Bit)タイプを使用しています。
プログラムメモリ(ROM)の信号名はEP-ROMの名称で記入してあります。

■ プログラムメモリとしてEP-ROMだけ、またはフラッシュROMだけしか使用しない場合は【JP2】,【JP3】は必要ありません。
EP-ROM使用時はBF3000を通してのプログラムのダウンロードはできません。フラッシュROM又はRAM使用時はダウンロードできます。

■ RAMをバックアップする必要が無ければバックアップ電源回路は必要ありません。メモリーの電源ピンには5Vを直接入力して下さい。
この場合メモリにリセット信号(RES*)を接続する必要もありません。

■ バグファインダBF3000接続用コネクタの5，6番ピン(外部リセット入力)は必要が無ければ使用しなくてもかまいません。(使用した方が便利)
本図ではリセット,電圧監視ICとしてMB3771(富士通製)を使用していますが他のICでもかまいません。

■ バグファインダBF3000接続用コネクタは、他のタイプのコネクタを使用してもかまいません。
日本圧着端子製造のEHコネクタ(6ピン)を使用するとバグファインダBF3000付属のターゲット接続ケーブがそのまま使用できます。

■ バグファインダBF3000接続用コネクタ1，2ピンの47Ωは無くても可ですが使用した方がベターです。

■ MPUにKL5C80A12を使用した場合の接続も基本的に同様ですが以下の点を変更して下さい。
ROMのCEピンにはKL5C80A12のM0CS信号を接続して下さい。RAMのCS1ピンにはKL5C80A12のM1CS信号を接続して下さい。
KL5C80A12のMODE[0]ピンは5Vに接続して下さい。MODE[1]ピンの接続先が5Vでノーマルモード、GNDでバグファインダモードになります。

◎ 本回路はあくまでサンプル回路です。実際の回路設計時には各ICのマニュアル、データブック等で内容を充分確認して下さい。

◎ 本回路の使用に起因する不具合、損害または特許権その他権利の侵害に関して、エーワン株式会社は一切その責任を負いません。

Title	バグファインダ(BF3000)対応MPU基板 サンプル回路図	Revision	1.00ab
Number: MPU: KL5C80A16 ROM,RAM: 128K Byte Type		Sheet	1 of 1
Date: 2000,06,02 – 2000,06,06	Drawn By: エーワン株式会社		A-ONE